次期学長に佐々木重人教授

学校法人専修大学は、故矢野建一学長の任期満了に伴う次期学長の選任を行い、7月6日開催の理事会で、佐々木重人（ささき・しげと）商学部長＝写真＝が選任（新任）された。就任は9月1日付、任期は3年間。

次期学長候補者の選出は、専修大学学長選任に関する規程に基づき、神田・生田両キャンパスで6月28日に第1回投票が実施された（投票・開票結果は後記の通り）。

佐々木教授が有効投票の過半数を得たため、投票管理委員会（杉野文俊委員長）は学長選任に関する規程第3条第1項第1号及び同項第3号に基づき、同日付で佐々木教授を最終学長候補者として学校法人専修大学理事会に報告した。

これを受け、学校法人専修大学は7月6日、評議員会の議を経て理事会を開き、佐々木教授を次期学長に選任した。

佐々木教授は東京都出身。1978年専修大学商学部卒業。83年専修大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学。同年専修大学商学部助手、助教授を経て95年同教授。2013年から商学部長。専門は会計史。博士（経営学）。61歳。

矢野学長が4月25日に急逝、馬場杉夫経営学部長が学長代行を務めていた。佐々木次期学長は「故矢野学長の遺志を受け継ぎ、2019年の専修大学創立140年に向けて、広く意見を聞きながら、着実に諸課題の解決に取り組んでいきたい」と抱負を語った。

佐々木次期学長のインタビューは9月号に掲載する。

◆投票・開票結果

（敬称略）

投票総数	532票
有効投票	519票
無効投票	13票
得票数	
佐々木重人	362票
馬場　杉夫	157票

矢野建一学長
惜別の献花

故矢野建一学長の「お別れの会」が6月25日、都内で開かれ、大学関係者や生前親交のあった友人、教え子らが祭壇に献花して故人との別れを惜しんだ＝写真（３面に記事）。

学生6人　川崎市選管でインターンシップ
参院選の事務作業に従事

7月10日投開票の参院選で、専大生6人が川崎市選挙管理委員会のインターンシップに初めて参加、公示前の準備作業から開票まで実際の選挙事務に従事した。選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ初めての国政選挙。投票権を得たばかりの1、2年次生も参加し、職責の重要性や仕事の大変さを学ぶとともに、政治参加の意義についても思いを巡らせた。

インターンシップに参加したのは1、2年次生各1人、3年次生4人の計6人。授業時間と調整しながら6月下旬から投開票日まで、各人が延べ5日間、多摩区と麻生区で業務に携わった。

多摩区では續橋佑介さん（経済3）と佐藤めぐみさん（人間科学3）が投票箱のチェックや、各投票所に送る書類の仕分けなどから取り掛かった。思った以上に力仕事が多い。慎重かつ手早く作業をこなすことが求められる。

投票箱の準備をする續橋さん（左）と佐藤さん＝多摩区

麻生区では河崎太樹さん（経済2）、下河美咲さん（経営3）、佐々木龍治さん（文3）が期日前投票の名簿チェックに当たった。間違いがないか隅々まで目を光らせる。19歳の河崎さんは「1票の重みを実感した。開票作業ではかなり緊張した」と話す。

下河さんは期日前投票の受付を担当したとき、若者が少ないことが気にかかり、所属ゼミのディスカッションで若者の投票率向上について話し合った。「選挙は自分たちの未来を決めるもの。もっと関心を持たなくてはと感じた」

18歳の田中惇嘉さん（経済1）は多摩区での就業体験の合間を縫って地元で期日前投票に行った。「緊張するかと思ったけど意外にあっさりしていた。でも自分の1票が政治に反映されるかと考えると感慨深い」

開票日の作業は明け方まで及んだ。6人は「大変だったけれど、学ぶことばかりだった」と充実した表情で語った。

岡本太郎美術館と地域つなぐ
小林隆プロジェクト生が企画運営

「美術館の作品を見て感じて、自分だけの塔を作ろう」

6月25、26の両日、生田キャンパス近くの川崎市岡本太郎美術館でネットワーク情報学部小林隆プロジェクトの3年次生9人が子ども向けのワークショップを開催。企画から運営まですべて担当し、地域密着の集客戦略を成功させた。

25日は幼児から小学生まで24人が参加。岡本の代表作「太陽の塔」の模型などを見学したあと、紙粘土をちぎったりのばしたりして絵の具で色付け。ボタンや国旗、配線などを飾り、約1時間半で思い思いの塔を完成させた。

小林プロジェクトのテーマは、同美術館に若い来場者を増やすこと。小林教授（情報システム工学）が同美術館スタッフと親交があり、プロジェクトリーダーの石井一幹さんは昨年度のキャリア研究授業で同じ課題に取り組んだことから、その体験を広げようと企画がまとまった。

広報・運営には学部での日ごろの学びが発揮された。イラストが得意な佐藤涼さんがロゴとチラシを仕上げ、数井俊輔さんは案内用の特設サイトを制作。そのQRコードをチラシに載せ同美術館から近距離の幼稚園や小学校に重点的に配った。

同美術館の普及企画係・橋本文惠さんは「地域に密着した広報活動は見事。足を使い、美術館を地域とつないでくれた」と拍手を送る。チラシを見た保護者がWebサイトで内容を確認し、メールで応募する方式で、募集から10日で定員が埋まった。

ほかのメンバーは▽松本悠花さん▽坂本昂太さん▽川上卓己さん▽金井徹也さん▽名取一樹さん▽島田隆広さん

子どもたちの作業を見守る

小林プロジェクトのメンバー。
机には完成した作品が並ぶ

子どもたちの力作約50点は7月31日（日）まで同美術館で展示中。好評を受け、小林教授は「秋にもう一回何か企画を」と期待を寄せている。

学生が考案したイベントロゴ

わたしのねんどでつくっTARO

ニュース専修
●「専修大学」ホームページ●　http://www.senshu-u.ac.jp/
毎月１回15日発行
（定価一部90円）
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819（直）

主なニュース

就職特集　育友会就職懇談会／2015年度就職状況……❹❺
ネット情報・渡部プロジェクトCGアニメ世界大会へ……❻
経済2学生が中南米に留学／「ハリポタ」魅力読み解く……❼
育友会支部懇談会　7月下旬から全国63会場で開催……❽
仲川恭司名誉教授が毎日書道展で文部科学大臣賞受賞……❾
石巻専修大学　女子競走部が北日本インカレで大活躍……❿

OPEN CAMPUS
予約不要・入退場自由
7/17 神田 sun
8/6・7 生田 sat・sun
8/28 生田 sun
11/6 生田 sun
2017
3/26 生田 sun
すべて 10:00 ▸ 15:00
入学センターインフォメーション
神田キャンパス☎03-3265-6677
生田キャンパス☎044-911-0794